

本年は、土壌水分が高い状態にあり、昨年の貯蔵養分も比較的多い状態です。

そのため、ハウス作型では収中盤穫以降は土壌の乾燥に注意して状況に応じてかん水の実施をしましょう。また、露地作型においては凍霜害の発生が心配されますので、小トンネル等の対策をしましょう。

1. 灌水の実施 ～アスパラは93%が水分～

◎かん水は収量増加に効果的です！ 土壌が乾燥しきる前にかん水を実施しましょう。

かん水量目安（10a 当り）：300～500ℓ/1回
かん水頻度目安：3～5日毎に
かん水実施時間帯：午前中に実施（理想は10時頃）

◎注意点

- ①排水性、地下水位の高さを考慮し根腐れとならないよう、かん水量、頻度を調整する。
- ②春は地温確保が重要になるので、一度に大量のかん水は避けましょう。
また、夕方かん水はその後地温の上昇が遅れるため避けましょう。
- ③朝早い時間帯でかん水するとパープルスポットの原因となるので避けましょう。

◎かん水の効果

- ①収量増加 ②品質向上（穂先の開きや曲りの軽減）
- ③高温障害・凍霜害の軽減（気温変化が多少緩和される）
- ④春肥の肥効が早まり、効果的となる。（特にハウスの場合）

2. 気象災害対策

本年も、凍霜等による被害が心配されます。

可能な限りの対策（保温、小トンネル、二重被覆の実施等）を講じて、被害を最小限に食い止めましょう。

◎凍霜害が発生したら

- ①水浸状になったものは刈取り次の萌芽を促す。（水浸状になっていないものは残しておく）
（全刈りすると次の萌芽が遅れる傾向があります）
なお、被害程度が軽く出荷可能なものは正常なものと分けけて出荷する。

3. 収穫中の品質管理

症状	原因	症状	原因
穂先の腐敗 穂先の早期開張 首部凍害	・生育中の高温（35℃以上で発生、乾燥状態程被害大）灰色カビ病 ・高温乾燥、養分不足 ・気温－1℃以下で発生	・曲がり茎の発生、茎の裂傷 ・切り口の穴あき、茎の食害 ・穂先の食害	・立枯病、障害物による損傷、養分不足 土壌水分の急激な変化、立枯病 ・ナメクジ、ネズミ、モグラ、ヨトウムシ ・ジュウシホシクビナガハムシ

4. 立茎開始の目安

◎1日の収量が最高収穫時（ピーク時）の30%程度まで低下したとき。

◎株令別による収穫日数（表）に達したとき。いずれの場合も最高収穫日数55日以内。

◎M級や細茎の比率が高くなってきた場合や穂先の開きが目立ってきた場合。